



特集

地域が担う 地方創生と人材育成

～鹿児島市と鹿児島大学の連携協定締結から10年を迎えて～

鹿児島大学 前田 芳實 学長
ま え だ よ し ざ ね

鹿児島市 森 博幸 市長
も り ひ ろ ゆ き

司会 本日は、鹿児島大学の教育・研究及び社会貢献活動、地域への取り組みと成果についてお話しいただきたくため、本学の前田芳實学長と鹿児島市の森博幸市長にご出席いただいております。大学と地域の関係や地域が大学に期待することなど、忌憚のないお話を伺えればと考えています。私は、今回の進行を務めます広報センター長の中島でございます。

鹿児島大学の地方創生

司会 それではまず、鹿児島大学の地方創生に向けた取り組みについてご説明いただけますでしょうか。

前田 鹿児島大学は、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材育成並びに「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施することを計画して

います。現在、第3期中期目標・中期計画の期間であります。この期間においては、南九州及び南西諸島の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化する方針を打ち出しております。地域特性を生かした教育及び国際化に対応した教育を推進し、地域ニーズに応じた社会人教育や地域との連携を強化しています。鹿児島大学では、いま「南北600kmこれが私たちのキャンパス」というスローガンを掲げており、学生たちにもそのような意識で学ぶ心意気を育てていきたいと思っております。これは、鹿児島県土の600kmを鹿児島大学のキャンパスとして、教育や研究、社会貢献活動に取り組みむということです。このフィールドには、火山や世界自然遺産の屋久島、そして奄美群島に代表される島々があり、生物の多様性など勉強する題材が豊かにあります。こういう風土

があります。現在、第3期中期目標・中期計画の期間であります。この期間においては、南九州及び南西諸島の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化する方針を打ち出しております。地域特性を生かした教育及び国際化に対応した教育を推進し、地域ニーズに応じた社会人教育や地域との連携を強化しています。鹿児島大学では、いま「南北600kmこれが私たちのキャンパス」というスローガンを掲げており、学生たちにもそのような意識で学ぶ心意気を育てていきたいと思っております。これは、鹿児島県土の600kmを鹿児島大学のキャンパスとして、教育や研究、社会貢献活動に取り組みむということです。このフィールドには、火山や世界自然遺産の屋久島、そして奄美群島に代表される島々があり、生物の多様性など勉強する題材が豊かにあります。こういう風土

を活用し、教育・研究に活かせるのも鹿児島大学の強みです。

司会 地域課題に取り組み人材育成の枠組みとして平成29年4月から、「地域人材育成プラットフォーム」が構築されました。これについてはいかがでしょうか。

前田 鹿児島大学は、鹿児島・南九州の「地域活性化の知の拠点」としての役割を担っており、地域人材の育成を行っています。地域マインドを備え、地域の課題を発見し、その解決策を論理的に考察し、さらにその解決のための取り組みに能動的に関与できる学士、これが鹿児島大学が定義する地域人材です。

他の大学では、地域に関する学部を設立したところもありますが、鹿児島大学では、地域人材を輩出するため、9学部を有する総合大学の強みを生かし、学部横断的な教育プログラムの枠組みとして「地域人材育成プラットフォーム」という新しい教育体系を学内に用意しました。このプラットフォームには、地域就業に主眼を置く「かごしまキャリア教育プログラム」と、地域の歴史や伝統、文化、自然を学際的に学ぶ「かごしま地域リサーチ・プログラム」の2つの教育プログラムが用

意されています。本プラットフォームにおける教育プログラムは、学部を横断した多様な学びに加え、インターシッピングやフィールドワークなどの実地体験を行うことによつて、社会における実践力を身につけることを目的としています。最近その重要性がよく言われているアクティブラーニングの中心について、このようなインターシッピングやフィールドワークを通して充実させていきたいと思っています。

司会 前田学長は、平成28年度「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム」に地方創生活動部門を設けられました。

前田 「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム」は、平成23年度から開始しています。進取の精神というのは鹿児島大学のキャッチフレーズです。学生自らが企画・運営・実施するさまざまなプログラムを通じて、困難な課題に果敢に挑戦するという趣旨があります。採択されると大学が活動経費を支援します。平成28年4月からは、このプログラムの中に新たに地方創生活動部門を設けました。これは、鹿児島県内自治体の地域課題、例えば、魅力ある観光資源の発掘とPR戦略の提言、商店

街の賑わい創出への支援など、地域が抱える問題に果敢に取り組み活動に資金を補助しようという試みです。

司会 人口の減少が進む中、競争力をつけるためには、地域に根ざした大学として、いかに特色を出していくかが重要となります。総合大学の特色を生かした関係部署間連携へ向けた取り組みについてお伺いしたいと思います。

前田 総合大学の特色を生かした「島嶼」、「環境」、「食と健康」、「水」、「エネルギー」の5つのプロジェクトは、部局の枠を超えた全学横断的な研究活動として、学際的共同研究のもとで研究を推進しています。地域ニーズに応えるには、本学のすべてで人材を育成することが必要になってくるものと考えています。本学は、9学部9大学院研究科による「オール鹿大」で地方創生に取り組み、総合大学としての強みと地域特有の課題や特色を生かした学術研究を推進していきたいと思っています。

司会 そのほか、大学が地域に対して貢献する活動としてはどのようなことがありますでしょうか？

前田 今、企業ではグローバル化が

進んでおり、英語力などバランスのとれた人材が必要とされています。本学では、グローバルな視野と行動力、課題発見・解決力、発信力、コミュニケーション力や粘り抜く力、困難を乗り越える力など、社会人としての基礎力がしっかりと身につくような教育を行っています。その取り組みとして、平成29年度に総合教育機構を設置しました。それから、入試改革として、国際バカロレア入試や外部英語試験を導入しました。

司会 先ほどお話いただいた地域貢献のためのさまざまなプログラムは、推進に加えて、グローバルな人材の育成を通じて地域貢献を図っているということですね。そのほか、大学が地域に対して行っている活動についてお尋ねしたいと思います。

前田 最近、リカレント教育という言葉がありますけれども、社会人を



司会：中島 宏
(なかじま・ひろし)
鹿児島大学 学長補佐 (広報担当)

対象とした教育を行うということも、地域に生きる大学としては大変重要なことだと思えます。社会貢献としては、地域住民向けの勉強会や市民公開講座などを開催しています。焼酎講座や地域防災といった鹿児島特有のシンポジウムや市民講座も開催しています。

鹿児島市の地方創生

司会 次に森市長にお聞きします。人口減少の現状と課題についてご説明いただけないでしょうか。

森 ご存じの通り、わが国においては平成27年国勢調査の結果、総人口が初めて減少し、経済規模の縮小や地方都市の衰退が危惧されるなど、時代の大きな変化の中で、それぞれの地域で将来に対する不透明感、不安感が払拭できない状況となっています。

人口の減少は、地域経済の縮小、少子化の一層の深刻化、医療・介護需要の増大、地域コミュニティ機能の低下など、さまざまな分野において地域の将来に大きな影響を及ぼす喫緊の課題です。鹿児島市の人口も60万人を下回り、平成27年の国勢調査において初めて減少に転じました(平成27年10月1日現在、59万9814

人)。本市においては、合計特殊出生率の改善や景気の緩やかな回復基調など、明るい材料もありますけれども、想定以上に人口減少が進んでいるものと認識しています。

司会 そういう状況下で、鹿児島市ではどのような取り組みがなされているのでしょうか？

森 現在、「東京一極集中の是正」などを基本的な視点として、わが国が直面する人口減少問題を克服し、地域活力の維持向上を図るため、国・地方が一体となって地方創生に取り組んでいます。本市でも、将来にわたって活力を維持し、地方創生に積極的に対応していくための指針として、平成27年12月に「鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

司会 森市長がお考えになっている今後のまちづくりの方向性について



鹿児島市地方創生総合戦略

お伺いしたいと思います。

森 本市では、平成30年の明治維新150周年事業と大河ドラマ「西郷どん」の放送、平成32年の「かごしま国体」など、歴史に刻まれる大型イベントの開催が予定されており、また、中心市街地などで民間主導による複数の大規模な拠点開発が進むなど、「第二の維新の波」が訪れようとしています。まさに今後の市政の行方が、将来の鹿児島のみちの装い、品格、機能などを決定づけていく極めて重要な時期になると考えています。この波を最大限に生かしながら、市民にとっての「豊かさ」を増幅さ



「西郷どん」大河ドラマ館 (イメージ)

せるとともに、本市の持続的な発展の基礎を築き、継承していくことが重要であると考えています。総合戦略で掲げた「郷土への誇りを胸に市民が生き生きと暮らし、国内外から訪れる多くの人々が行き交う、豊かさを実感できるまちづくり」を目指して、雇用創出や少子化対策、交流人口の拡大など、各種施策を着実に、積極的に進めていきたいと思っています。

鹿児島市と鹿児島大学の連携の強化

司会 鹿児島市と市内の大学との関係についてはいかがでしょうか？

森 本市では、市と大学が持つ資源や機能等の活用を図りながら、相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的に、平成28年度までに市内に6つあるすべての大学(鹿児島大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島県立短期大学、志学館大学)との連携協定を締結したところです。

今年度は、市内の6大学と本市の連携窓口が一堂に会し、連携事業に関する協議等を行う「鹿児島市大学連携ネットワーク会議」を9月5日に初めて開催しました。また、年度内には、6大学の学生が一堂に集う



学生との協働による広報紙「市民のひろば」制作

「鹿児島市大学連携学生シンポジウム」の開催を予定しており、各大学の魅力や連携事業を広くPRしていきたいと考えています。

司会 鹿児島市と鹿児島大学との連携についてはどのような状況でしょうか。

森 鹿児島大学と本市は、市内の大学の中では最も早く、平成19年に「本市のまちづくりに関すること」と「地域経済の活性化に関すること」について、包括的な連携協定を締結し、今年の11月でちょうど10年の節目を迎えます。連携内容も年々充実してきており、現

在では80を超える取り組みを実施しています。

一部を紹介しますと、例えば、本市の広報紙「市民のひろば」の情報面において学生と協働で編集作業を行い、紙面に若者の視点を取り入れることで「面白い」、「読みやすい」などの好評をいただきました。それから、鴨池地域まちづくりワークショップの一環として、大学内の探訪や、学生と地域の小学校との学びの場を設けるなど、地域住民との連携にもご協力をいただいています。その他、本市が目指す「世界基準のまちづくり」に関して、鹿児島大学の専門家や学生に協力をいただきながら、旧集成館などの世界文化遺産登録や、桜島・錦江湾の世界ジオパーク認定に向けた取り組みも進められてきたところです。

司会 今後、鹿児島大学との連携を強化したい分野としては、どのようなものがありますか？

森 今後とも、専門的な見地からの助言に加え、学生の若者らしい斬新な発想力を、本市のまちづくりにさらに生かしていきたいと考えています。国内の経済規模が人口減少等により縮小していく中で、本市では、九州の南の拠点として、国内はもと

より、地理的に近接するアジアの都市と連携・協力して、地域資源を掘り起こすとともに、新たな魅力を創出していく必要があります。それらを効果的に情報発信していくためには、アジアの国々から多くの留学生を受け入れている鹿児島大学との連携が不可欠であると考えています。国際交流の観点からも、互いに連携・協力しながら、アジアとの人・もの・情報の多面的な交流を成長エンジンとして、鹿児島島の新たな活力の創出につなげていきたいと考えています。

司会 森市長が求める人材についてですが、具体的に鹿児島大学にはどのような人材育成を望まれますか？

森 本市においては、10代後半から20代前半にかけての転出超過、特に就職や進学を契機として、18歳以上の方々の市外流出が顕著です。若者の地元定着は、地方創生の実現に向けて必要不可欠で、若者の市外流出の原因を分析し、実効性のある対策を講じていく必要があると考えています。そのためには、若者が地元に残り、自分のふるさとを活性化し、魅力を高めていこうという思いを湧き立たせるようなまちづくりが大切であると考えています。自分が生まれ育ったまち、学んだまちが魅力的



鹿児島大学での市長とふれあいトーク

であれば、住みつけたい、いつか戻ってきたい、そう思ってくれると思います。学生がまちづくりに参画できる機会をさらに充実させていくこと、そして、産業界と行政、次代の人材育成を担う大学が互いに連携して知恵を絞りながら、連携を深化させていくことで、若者の地元定着と一緒に取り組んでいただきたいと思えます。

鹿児島大学に対する期待

司会 森市長から、鹿児島大学に対する期待をお聞かせください。

森 先ほど前田学長からお話があ

りましたけれども、鹿児島大学では文部科学省の認定を受け、現在「地（知）の拠点整備事業」、いわゆる「COC事業」に取り組みられています。この取り組みは、「火山と島嶼を有する鹿児島島の地域再生プログラム」として、防災や観光、エネルギー、農林水産業をテーマに、自治体とともに課題を解決していくものとされており、鹿児島島の地域特性に的確に対応したものであると認識しています。鹿児島大学の「地（知）の拠点」としての役割や取り組み、研究成果の果が広がり、ひいては、高校生の地元進学率や、大学生の地元就職率の向上にも寄与するよう、大学からの積極的な情報発信に努めていただくことを期待しています。

前田 本学では平成26年10月に設置しました「かごしまCOCセンター」を中心に、防災や離島医療などの解決策を探っており、研究成果報告会も開催しています。今後は、さらに積極的に情報発信に努めていきたいと考えています。

森 特に鹿児島大学には、県内8つの大学の中心的な役割を果たしているだけのもので期待しています。「地（知）の拠点大学による地方創生推

進事業」、いわゆる「COC+事業」において目標とされている「大学生の県内就職率の向上」

は、本市の地方創生総合戦略や第五次総合計画においても、目標指標として掲げており、そういう意味においても鹿児島大学と本市は、目指す方向性が一致しています。地方創生を実現する上でも、「COC+」の拠点大学として、県内唯一の国立の総合大学として、鹿児島大学の役割は非常に大きいものと考えています。鹿児島大学には、学術研究分野はもちろんのこと、地域貢献の分野においても、県内の大学をリードする大学として、ますます飛躍され、鹿児島を牽引していただきたいと思えます。

司会 いま森市長からCOC事業、COC+事業、そして大学への期待について触れていただきました。その点についてお話しください。

前田 大変大きな期待ですね。鹿児



島大学はCOC+大学として、教育プログラムの改革及びインターン

シップ・就職支援策の拡充整備のほか、学卒者の地元就職の促進に向けて、県内の大学や鹿児島県、企業団体等、「オールかごしま」による地方創生を推進する体制を構築しています。ちょうど鹿児島市の中心に位置するキャンパスで、防災や島嶼、医療など地域の課題に目を向け、地域社会の発展に貢献できる人材を育てていきたいと考えていますので、今後ともご指導、ご助言をお願いしたいと思えます。

鹿児島大学の学生への期待

司会 それでは、最後に森市長から鹿児島大学の学生にメッセージをお

願います。

森 人口減少・少子高齢化問題を打開していくためには、若い感性、挑戦するエネルギー、柔軟な発想が重要です。我々の年齢になると固定観念で対応しがちになり、それを打ち破るのはなかなか難しいと感じますが、学生の皆さんには、ぜひ若者らしい発想をもって、積極的に行動を起こしてほしいと思います。

また、鹿児島大学は、さまざまな分野の専門家が集い、情報が集積する頭脳集団であり、われわれ鹿児島市民にとっての財産だと思っています。さらに能力に磨きをかけていただき、もっと県外・世界に情報を発信してほしいと思います。

それから、本市では、市民や

前田芳實（まえだ よしざね）鹿児島大学長
 昭和44年 3月 鹿児島大学大学院農学研究科修了
 （昭和52年3月 農学博士取得（九州大学）
 鹿児島大学助手農学部
 平成 6年 7月 鹿児島大学教授農学部（～平成21年3月）
 平成21年 4月 国立大学法人鹿児島大学理事（～平成25年3月）
 平成25年 4月 国立大学法人鹿児島大学長（～現在）

NPO法人などと連携した協働のまちづくりを進めており、さまざまなワーキンググループ等を通じて、学生に参加していただき、若者の視点での意見をいただいています。こうした取り組みをはじめ、地域ボランティア活動などについても、多くの学生に参加・協力していただければ、本市としても大変ありがたいですし、学生にとっても地域とのつながりを



前田 私は、鹿児島大学で学びましたので、在学生は私の後輩ということがあります。私が入学した当時は、日本の高度経済成長が始まりかけた頃でしたので、非常に活気がありました。社会に出て活躍しよう

体感でき、社会活動を経験できる貴重な機会になるのではないかと思います。鹿児島は観光資源をはじめさまざまな素材がそろった、成長可能性の高いまちですので、卒業後は、ぜひそうしたポテンシャルを生かした起業・創業へのチャレンジなどを通して、鹿児島をもっと元気にし、支えていただけるような「人財」として大きく羽ばたいていただきたいと思います。

という向上心の強い学生が多かったように思います。私は、ソ連（現在のロシア）のイーリンという歴史学者の書いた本の中にあつた「農業はすべての文化の上流にある」という言葉に感銘を受け、農学部に興味を持ち、進路を決めました。それから、高校時代に繰り返し詠んだ広瀬淡窓という漢学者の漢詩の中に「道うことを休めよ 他郷苦辛多し」という言葉があります。これは、故郷を離れて学ぶことに不満を持たず一生懸命勉強しなさい、という意味です。最近、私は、この「他郷」という言葉は、新しい環境、新しい生活の場、新たな仕事、新たな人間関係、新たな学問領域、未開の地など、これから始まる世界というような意味だと、解釈するようになってきました。未

知のことに大いにチャレンジしなさい、ということだと思いついています。これは本学のうたっている進取の精神を培うということにつながると思います。学生には「道うことを休めよ 他郷苦辛多し」という思いを持っていただきたいと思っています。それから、鹿児島大学では海外研修や進取の精神チャレンジプログラムなど、学生の支援を行っています。若い世代ですので、そういうものを活用してさまざまなことにチャレンジして人間性を磨いてほしいと思っています。



森 博幸（もり ひろゆき）鹿児島市長
平成16年12月 鹿児島市長（1期目）～現在（4期目）
平成17年 1月 鹿児島県市長会会長
平成23年 6月 全国市長会相談役
平成26年 2月 税制調査会特別委員
平成27年 5月 九州市長会会長